

令和元年度（第49回）栗東歴史民俗博物館協議会 議事録

- 開催日時 令和2年2月14日（金曜日）14時00分から15時50分まで
- 開催場所 栗東歴史民俗博物館 会議室
- 出席者
協議会委員 西尾 悦子（会長）、月野 みつ（副会長）、大西 洋子、大橋 信弥、
奥野 初恵、柏川 敏子、國賀 由美子、澁江 善光、山本 喜三雄
の各委員（9名）
- 事務局 片岡 豊裕（スポーツ・文化振興課 課長 兼 歴史民俗博物館 館長）
加藤 宏之（歴史民俗博物館 副館長）
大西 稔子（歴史民俗博物館 主幹 ・ 学芸員）
中川 敦之（歴史民俗博物館 主査 ・ 学芸員）
- 欠席者
協議会委員 吉見 静子 委員
- 傍聴者 0名

概要

1. あいさつ
2. 協議事項
 - ①副会長の選出について
 - ②令和元年度博物館事業について
 - ③令和2年度博物館事業について
 - ④その他
4. 閉会

議事

1. あいさつ
開会のあいさつ（西尾 悦子 会長）
（片岡 豊裕 スポーツ・文化振興課 課長
兼 歴史民俗博物館 館長）
2. 協議事項
 - ①副会長の選出について
委員の互選により月野 みつ 副会長を選任。
就任のあいさつ（月野 みつ 副会長）

②令和元年度博物館事業について

③令和2年度博物館事業について

資料に沿って、事務局 大西 稔子 主幹より一括して説明。

(委員) 開館から30年が経過するが、現在の歴史民俗博物館の課題を教えてください。

(事務局) まず、施設の老朽化がある。特に、収蔵資料の保存環境に直結する空調機の老朽化が課題と考えている。

次に、職員数の不足がある。現在、正規職員の学芸員2名が在職しているが、仏教美術を専門とする学芸員が平成21年に退職して以降、補充がない。当館の特性を考えた場合、仏教美術を専門とする学芸員の配置が必要と考える。

(委員) 数年前に問題となっていた、雨漏りは解消できたのか。

(事務局) 解消できている。

(委員) 収蔵庫のスペースには、どの程度余裕があるのか。

(事務局) 新しい収蔵資料が全く入れられない、というわけではないが、手狭になりつつある。

(委員) 全ての収蔵庫がそういう状況か。

(事務局) 仏像などを収蔵する特別収蔵庫、歴史資料を収蔵する第1収蔵庫、民俗資料を収蔵する第2収蔵庫、第3収蔵庫とあるが、いずれも8割ほど埋まっている状況である。

(委員) 仏像について、年間何件程度、新たに受け入れているのか。

(事務局) 度々受け入れているわけではない。

(委員) 仏像については、今後、歴史民俗博物館として預からなければならない状況が多く出てくるように思う。その際に、収蔵庫のスペースに余裕がないから受け入れられない、ということにならないよう、増築などの計画を立案する時期に来ているのではないか。

(副館長) 現在、他市町の文化財も預かっており、市としての考え方を整理する必要がある。また、文化財以外でも、他館から図録などの刊行物を受け入れているが、歴史民俗博物館か出土文化財センターかのいずれかで、市として1冊受け入れれば良いのかなどについても、検討する必要がある。全ての資料を受け入れていくことについては、現実的に無理な面があると考えている。

(館長) 収蔵庫のスペースについては、当館だけではなく、全ての博物館に共通した課題だと認識している。寺院や神社の無住化や、それにとまなう盗難などの問題は確かにあるが、まずは収蔵資料の見直しが必要ではないか。

施設の老朽化や職員数の不足といった課題については、解消していく必要があるが、収蔵庫の増築までは難しいのではないかと感じる。

(委員) 歴史民俗博物館はもともと、旧栗太郡を対象とする博物館であるが、近年は活動の範囲が狭くなっているように感じている。

歴史民俗博物館の立場から、「難しい」などと言ってはならず、歴史民俗博物館としてPRしていく必要があるのではないか。

(委員) 各博物館にそれぞれの問題はあるが、それぞれに対応している。例えば、野洲市歴史民俗博物館では、収蔵庫を増築し、民俗資料や考古資料を移すことで、スペースを確保した。

課題を放置しておくのではなく、調査が必要ではないか。

また、私は、歴史民俗博物館の開館当初からこの協議会の委員を務めており、当時から展覧会の回数が多すぎるので減らしてはどうかと指摘し続けてきたが、近年は展覧会の開催経費を縮減した状況が続いている。他館の展覧会の開催状況についても調査し、要求すべき経費は要求するようにしてはどうか。

(委員) 先ほどの副館長からの説明について確認したい。他館から送られてくる刊行物は収蔵庫に入れているのか。

(事務局) 収蔵庫には入っていない。蔵書数が多く、書架に収まりきらないという趣旨である。

(委員) 空調機の改修については、どのような見通しになっているのか。

(事務局) 空調機のリニューアルなど、大規模改修の予定は立っていない。現状の空調機のメンテナンスや修繕を行っていくことになる。

(委員) 外部委員にも参画してもらい、中期的・長期的な計画を策定してはどうか。

(副館長) 市全体の中期的・長期的な計画に反映させるためにも、歴史民俗博物館としての中期的・長期的な計画は必要と考えているが、当面は個別的な修繕していくことでの対応となる。

また、30年前の開館当初に比べて近隣の住宅も増えており、屋外機械室に設置しているチラーを改修する際には、住環境への配慮から、送風機の位置などについても検討する必要がある。

(委員) 予算を確保するためにも、課題解決の方法を検討し、計画を策定する必要がある。

職員体制について、専任の館長は置けないのか。

(館長) 館長が兼務の中、平成31年4月より、2年ぶりに週4日勤務の副館長が配置された。当面は、この職員数については確保しつつ、正規職員の増加につなげていきたい。

私自身、今年度より館長を兼務し、また、本日この協議会でご意見をいただく中でも、専任の館長を配置する必要性を改めて感じており、人事部局にも伝えていく。

(委員) 近年の栗東市の財政状況については承知している。一方で、普通交付税の不交付団体となったこともあり、こういった機会をとらえて運営の適正化を図っていただければと思う。

かつてに比べると企画展は低調であると感じるが、栗東の良さ、素晴らしさを、展覧会を通して知ってもらおう努力をし、もう一歩踏み出して、より良い活動ができるように考えて欲しい。

ところで、2月29日に開催する公開歴史講座「秀吉・家康に仕えた知将宮城豊盛」について、配布しているチラシでは、歴史民俗博物館・ボランティア観光ガイド協会・市民学芸員の会が主催者となっている。ボランティア観光ガイド協会・市民学芸員の会は任意団体であり、歴史民俗博物館とはそもそも位置づけが異なっている。責任の所在や事業のあり方を整理し、適正な運営を心掛けていただきたい。

(委員) 資料の5ページにある「まちづくり出前トーク」や「文化財関連事業への協力」については、2名の学芸員が分担していると理解したが、件数を見るかぎり、オーバーワークとなっているのではないかと懸念する。

学芸員の業務は、アウトプットするだけではなく、インプットし蓄積するゆとりも必要である。

(館長) 今年度より館長を兼務し、歴史民俗博物館の学芸員がさまざまな場所に出向き、活動しているということを改めて痛感した。これまで、外からは分からない部分で蓄積したものを、さまざまな場面で発揮してくれていると感じている。

職員の労務管理については、適正に行っていききたい。

かつて町史編さん事業を担当したこともあり、開館当初からの活発な展覧会の開催や、それにとまなう図録の出版を目の当たりにする機会に恵まれた。当時のことを思うと、委員のご指摘のように、現在の取り組みへの物足りなさも感じている。

この協議会でのご指摘も含めて、必要なものについては要求していくようにしたい。

(委員) 令和2年度に予定している「琵琶湖文化館地域連携企画展」では、どのような連携をするのか。

(事務局) 平成20年度から休館中の滋賀県立琵琶湖文化館が、収蔵資料の公開を図ることを目的に行っているもので、県内の博物館を会場に、それぞれの地域にちなんで収蔵資料を展示されている。当館では、旧栗太郡にちな

んだ、仏像などの収蔵資料が展示されることになる。

展覧会の開催に係る経費の負担や、展示作業など、事業の主体は滋賀県立琵琶湖文化館だが、広報や関連講座などを協力して行っていきたい。

(委 員) かつて、歴史民俗博物館では、埋蔵文化財の展覧会についても、発掘調査成果展などのかたちで活発に行っていたが、当面の予定はないのか。

「琵琶湖文化館地域連携企画展」で仏像を展示することは大きな成果ではあるが、さまざまな分野から魅力を打ち出していく必要がある。豊富にある埋蔵文化財も含めて、旧栗太郡を紹介してはどうか。

(副 会 長) 市民学芸員の会が取り組まれている木綿は、魅力的な素材と感じる。古い時代には、「嫁入りまでには反物を織れるように」などと言われたこともあるが、最近では、現代風にアレンジしたもんぺが流行するなど、木綿製品には根強い人気がある。ワークショップのネーミングを工夫するなど、上手に発信すれば、集客につながるのではないのか。

(事 務 局) 収蔵品をもとに体験用の道具を製作された市民学芸員の会の活動を、さまざまな世代に知っていただく機会としたい。

糸偏がつく素材は、女性にとって馴染みやすいとも言われており、工夫しだいで市民学芸員の会の活動の新たな展開につながっていくと感じている。

(会 長) 歴史民俗博物館は例年、限られた人数で多くの活動に取り組んでいるが、専任の館長が不在となっていることや、分野別の担当学芸員が配置されていないことが、収蔵庫のスペースの問題について考える上でも悪循環をもたらしていると感じる。施設・設備面では、突発的な事故により空調機が故障すると、収蔵資料の損傷にもつながることとなる。

歴史民俗博物館には、RISS ミュージアムロビーコンサートなどの取り組みを通じて、歴史民俗博物館に来る人、歴史民俗博物館を知る人を増やし、自らが暮らす地域の歴史や文化を知ってもらう機会を増やして欲しいと期待している。

この協議会としても、歴史民俗博物館の活動が前向きなものとなるよう、学芸員の補充や施設・設備の改修の必要性を訴えることも含め、歴史や文化を守っていくための方法を考え、動いていきたい。

(館 長) 歴史民俗博物館が開館した当初のすがたを知っている者として、訴えるべきものは訴えたいと思う。次の30年につながるよう、委員の皆様にもご協力をお願いしたい。

(副 会 長) テレビ番組の影響もあって歴史への注目度は高まっており、良い機会だと思う。歴史の中の栗東を発信して行って欲しい。

(委 員) 栗東音楽振興会（RISS）と歴史民俗博物館と共催している RISS ミュージ

アムロビーコンサートは、昨年度までは年間4回開催していたものを、今年度からは年間3回の開催としたが、遠方からの来場者も含めて、毎回100名から百数十名の方が来場されている。

多くの来場者から、「狛坂磨崖仏のレプリカが印象的だ」「狛坂磨崖仏を背景に、音楽を聴くことに意味がある」というご感想をいただいているが、興味を持って、コンサート後に展覧会をご覧になる方はもちろん、実際に狛坂磨崖仏を見に行く方もおられるとうかがっている。さまざまな入り口から歴史民俗博物館に入って来られる機会を提供できているように思う。音楽や美術、演劇など、文化度の高い地域は豊かな地域であると考えているが、歴史民俗博物館としても、学芸員や専任の館長をそろえ、文化財を守り伝えて欲しい。施設・設備についても、自然災害などで取り返しのつかない事態が発生しないよう、適正に整備して欲しい。

- (委員) 入館料について、平成21年度以降、無料とされているが、今後の扱い方についてうかがいたい。
- (事務局) 有料の展覧会を開催することは緊張感をともなうが、得られるものもある。また、補助金など、展覧会への外部資金の投入も検討してはどうか。
- (館長) 現在、入館料は無料としているが、特別展の開催など、必要があれば有料とすることができる制度となっている。ただし、現状では、それだけの規模の展覧会を開催できる体制にはないとも感じている。
- また、展覧会ではないが、平成26年度と平成27年度に行った移築民家旧中島家住宅のかまど再生事業では、文化庁の補助金をいただいた。今後も、職員体制を勘案しつつ、必要に応じて補助金を申請したい。
- (館長) 入館料の有料化にせよ、補助金の申請にせよ、計画の立案と事務手続きが必要となる。職員体制の充実化を図ることが、これらの取り組みにつながっていくと感じるので、施設の改修と並行して要求していきたい。

④その他

- ・スポーツ・文化振興課より依頼のあった「栗東文化芸術会議委員」の推薦について、委員各位のご賛同により、引き続き西尾悦子会長を推薦することを決定。
- ・平成21年度より年間1回の開催となっていた栗東歴史民俗博物館協議会について、令和2年度より年間2回に復することを事務局より報告。

4. 閉会

閉会のあいさつ（月野みつ 副会長）